

コンタクトレンズ・トラブル

病気に関連する予防医学と豆知識

CL(コンタクトレンズ)ユーザーは1000万人をゆうに越すといわれております。始まりは、ルネッサンスの時代レオナルド・ダヴィンチが最も早くその原理を実験したとされております。1930年には当初はガラス製のレンズが使用され始めて実用化にはいたらず、1950年に初めてHCL(ハードコンタクトレンズ)が実用化されて60年余りで素晴らしい進歩を遂げております。その分類は材料によるものでは1.HCL 2.SCL(ソフトコンタクトレンズ)、装用スケジュールによる分類は1.CLの寿命が来るまで使用。2.定期交換用:1から3月ごとに定期的な交換する。3.頻回交換:2週間交換。4.ディスポーザブルに分かれております。コンタクトレンズは目の形により、HCLが良い人、SCLが良い人が医学的に分かれてきます。もちろんどちらを選択しても良い人も出てきます。しかし中には医学的に使用できない方がいらっしゃいます。細かいことをここに羅列すると書ききれないほどになりますので要点を書いていきますと、CLの取り扱いを正しく行えない方、不衛生な方、眼の病気をされた方(例えば角膜ヘルペス、アレルギー、ドライアイ、慢性の感染症、などなど)、糖尿病の方、ある種の内服点眼を使用中の方、職業上危険物を扱う方等です。CLは眼に直接ふれるものであり製品の粗悪さ、適切でないCLの装用、レンズの管理不良など問題があると、恒久的な視力障害をもたらすこともあります。しかし、今は眼科への受診や処方箋もなしに購入することが出来る状態であり、それが問題となっております。米国でも装用指導なしにカラーCLが販売され中には角膜感染症で失明状態になったものの報告もあります。日本コンタクトレンズ学会でも“わが国のCL使用者は不適切なCLの選択や誤った使用方法、定期検査や適切なレンズケア指導の欠如により眼障害の危機にさらされている。適切な規制、管理を行うべきである。”と提言しております。日本眼科学会の調べでは、およそ10人に1人のユーザーが眼の異常を指摘されているとの報告がありました。安易な使用が御自分の眼を危険にさらしているかもしれません。お気をつけ下さい。